参考資料1

# 委員からご提出いただいた好事例集

# 杉本委員ご提供の好事例

「人と動物の心のバリアフリー」

「公益財団法人動物環境・福祉協会 Eva」では、去る 9 月 17 日と 18 日に、京都にて主催イベントを開催いたしました。イベントは「人と動物の心のバリアフリー」をテーマに、健常者も体が不自由な方もお年寄りも、そして身近な動物も、それぞれの個性や立場を尊重し、みな同じかけがえのない一つの命として、優しい社会作りについて考えました。

その中のプログラムの一つに、京都在住の視覚障がい者の松永信也さんを講師として参加していただき、一般来場者を対象に講演と手引きのデモンストレーションを行いました。

講演会「見えない世界を伝えたい」では、松永さんが 39 歳で目が不自由になられた当事者の立場から、視覚障がいについて「見えない人のことを正しく知ってもらいたい」と、目の見えない世界がどのようなものかお話していただきました。

全国で白杖をお持ちの方は 31 万人、そのうち約 1 割の方が全盲の方だそうです。目の不自由な方で生まれつき見えない方はごくわずかで、ほとんどが病気かケガによるものです。原因は 1 位が緑内障、2 位は糖尿病又は網膜症です。

松永さんが全く見えなくなった時、頭の中の思いは「辛い、悲しい、悔しい、ムカつく」そして最後には必ず「こうなったら死んでしまった方が楽ちゃうかな。」それの繰り返しだったそうです。でも、それでも人間はその状況を諦め次第に慣れていくもの。それが人の「生きていく力」こうおっしゃられました。松永さんの言葉を聴き、誰もが今の自分に重ね合わせ、幸せとは何か自問自答したでしょう。心に響く講演でした。

＜会場からの感想＞

〇杖を突いている方でも携帯は見えているとか中心だけは見えるなど、完全に見えてないわけではないということを知った。

〇杖を持っている方を見かけても声掛けする勇気がなく、逆に迷惑かとためらい、分からないことばかりだったが今回知ることが出来てとても学びになった。

講演のあとは、手引きのデモンストレーションを行いました。白杖を持った方が街中で迷っていそうな時、どう声をかけたらいいのか、どうご案内すればいいのか、このようなことを知る機会がないまま、私たちは社会に出てしまいました。知ることの大切さ、そして相手の方を思いやりサポートすることで、サポートする側も幸せになれます。手引きを知れば臆する事なく、最初の一声、最初の一歩を踏み出せます。体験コーナーでは小学生の女の子が積極的にチャレンジしてくれました。

＜会場からの感想＞

〇白杖の方を見かけたら勇気を出して声掛けをしたい。ホームから転落されるような事故がなくなる社会になりますように。

〇ちょっとした心遣い、思いやりそして勇気を持って今回の学びを活かしていきたい。

「公益財団法人動物環境・福祉協会 Eva」では、動物福祉の向上について日頃活動しています。ですが、動物に優しい社会は人にも優しい社会です。人に対し、思いやりを持つこと、その気持ちの余裕を常に持つことが出来れば、おのずと動物も生きやすい社会へとなるでしょう。当協会は、今後も人の福祉の向上も視野にいれ、普及啓発に注力していきたいと思います。

【画像】

松永信也さん講演「見えない世界を伝えたい」

手引きデモンストレーション